

△道路行政に關係ある法律、命令、訓令、通牒等苟くも道路行政に當る人々の知らざるべからざることとは凡て本欄に於て紹介す  
 △道路行政に關し生じたる疑問は本欄に於て回答するを以て會員諸氏は隔意なく質問あらん事を望む

道路現況調査

事項	要項	備考
一、申請區間 二、道路ノ種別及延長籽程 三、道路ノ幅員	國道 計 有效幅員四・五米以上ノ區間 有效幅員四・五米未満ニシテ總幅員四・五米以上ノ區間 籽府縣道 籽 待避所 ケ所 ケ所最大距離 籽 籽 籽	總幅員四・五米未満ノ區間ニシテ申請者又ハ道路管理者ニ於テ道路ヲ改良セムトスルモノアルトキハ箇所毎ニ其ノ改良區間 <small>（自何</small> ト表示スルコト）、延長（籽）及總幅員（米）ヲ附

發第二一九號

昭和十年十月三十日

各地方長官殿

道路現況調査添付ノ件通牒

内務省土木局長

自動車交通事業法施行規則第五條第二項ノ規定ニ依リ免許申請書ノ副本ヲ當省大臣ニ提出スル場合ニ於テハ同則第四條ノ規定ニ依ル道路管理者ノ意見書ニハ別紙様式ニ依ル道路現況調査ヲ添付セシメラレ度

四、路面ノ状態	總幅員四・五米 未滿ニシテ總幅員三・六米以上ノ區間 總幅員三・六米未滿ノ區間	待避所	ケ所 ケ所最大距離 ケ所	料 米 料	記スルコト但シ待避所ヲ新ニ設置セムトスルモノアルトキハ第五項ニ其ノ要項ヲ記載スルコト
五、待避所ヲ設置セムトスル箇所ニ於ケル道路ノ有效幅員	屈曲半徑十一米未滿ノ箇所 最小屈曲半徑	箇所	米	待避所ノ有效長待避所間ノ最大距離及待避所ノ數ヲモ記載スルコト	
七、勾配	六パーセントヨリ急ナル勾配ノ箇所數 最急勾配	箇所	パーセント	橋梁有效幅員(橋名ヲ記スルコト)及特ニ重量大ナル車輛ヲ使用スル場合ニ在リテハ橋梁、溝橋ノ安全荷重ヲ記載スルコト	
八、橋梁、溝橋ノ状態					

九、其ノ他必要ト認ムル事項

交通量、鐵道軌道等トノ交叉關係其ノ他ヲ記載スルコト

注意

- 一、本様式ハ府縣知事ノ管理ニ屬スル道路ニ付其ノ様式ヲ示シタルモノナルヲ以テ其ノ他ノ道路又ハ通路ニ付テハ其ノ管理  
者ニ於テ之ニ準シ作成スルコト
- 二、第一項乃至第三項、第六項及第八項ノ事項ニ付テハ之ヲ五萬分ノ一以上ノ平面圖ニ記載スルコト（申請書ニ添付セル平面圖ヲ利用スルモ差支ナシ）

發第二一六號

昭和十年十一月七日

內務省土木局長

（參考）  
道路構造令並同細則改正案要項

總 則

各土木出張所長  
土木試驗所長 殿  
各地方長官

第一 本則ハ國道及府縣道ニ之ヲ適用ス

道路構造令並同細則改正案要項送付ノ件

（街路ニ付テハ別ニ定ム）

義ニ地方土木主任官會議ニ諮問相成候標記ノ件今般別紙ノ

幅 員

通成案ヲ得候ニ付御參考迄ニ及送付候

第二 道路ノ有效幅員トハ路面幅員ヨリ路肩ノ幅員ヲ除キタルモノヲ謂フ

追テ道路構造令及同細則ハ近ク改正可相成見込ニ付申添

候

第三 路肩ハ路面内兩側ニ設ケ其ノ幅員ハ各〇・五米以上

ト爲スベシ、但シ特殊ノ箇所ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第四 道路ノ有效幅員ハ次ニ掲グルル甲ノ規格ヲ下ルコトヲ得ズ、但シ山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り乙ノ規格ニ依ル

指定府縣道  
其ノ他ノ府縣道

六・〇米 五・五米  
五・五米 四・五米

コトヲ得

前項ノ有效幅員ヨリ大ナル有效幅員ヲ必要トスル場合ニ

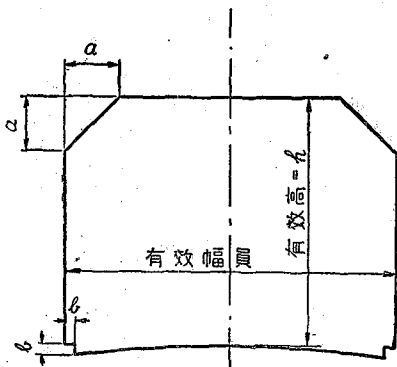
$h = 4.5 \text{ m}$   
 $a = 1.0 \text{ m}$   
 $b = 0.2 \text{ m}$

$h = 4.0 \text{ m}$   
 $a = 0.5 \text{ m}$   
 $b = 0.2 \text{ m}$

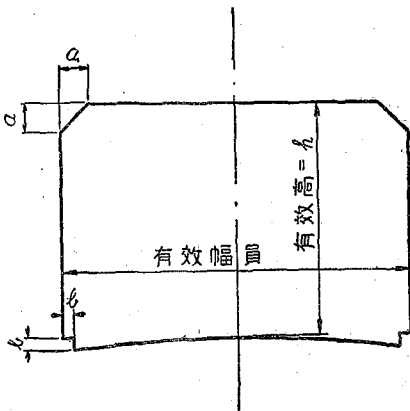
於テ一一米迄ハ次ニ掲グル規格ニ依ルベシ

一一・〇米 九・〇米  
七・五米 六・〇米

(甲)



(乙)



第五 橋梁及隧道ノ有效幅員ハ第四ノ規格ニ依ル接續道路ノ有效幅員ト同一ト爲スベシ、但シ橋梁ニ在リテハ其ノ延長一五米以上、隧道ニ在リテハ特殊ノ場合ニ限り接續道路ノ有效幅員ノ次位ノ有效

道路ノ種類

甲 七・五米  
乙 六・〇米

幅員ト爲スコトヲ得  
第六 路面上ノ建築限界ハ次ニ掲グルル甲ノ規格ニ依ルベシ

但シ特殊ノ箇所ニ限リ乙ノ規格迄縮小スルコトヲ得

線形

第七 屈曲部中心線ノ半徑ハ次ノ規格ニ依ルベシ、但シ特殊ノ箇所ニ於テハ一五米迄、反向曲線（ヘヤビン曲線）ニ於テハ一一米迄之ヲ縮小スルコトヲ得

道路ノ種類

半徑	平坦部	丘陵部	山岳部
	道	三〇〇米以上	一五〇米以上
	指定府縣道	二〇〇米以上	一〇〇米以上

其ノ他ノ府縣道 一五〇米以上 七五米以上 三〇米以上

第八 屈曲部中心線ノ長ハ平坦部ニ在リテハ六〇米以上、

丘陵部ニ在リテハ四〇以上、山岳部ニ在リテハ二五米以上

上ト爲スベシ

第九 安全視距ハ道路ノ中心線上一・四米ノ高ニ於テ次ノ

標準ニ依ルベシ、但シ中心線ノ半徑三〇米未滿ノ箇所ニ在リテハ三〇米迄、反向曲線ニ在リテハ二〇米迄之ヲ縮小スルコトヲ得

道路ノ種類

安全視距	平坦部	丘陵部	山岳部
	道	一〇〇米以上	一〇〇米以上
	指定府縣道	一〇〇米以上	九〇米以上

其ノ他ノ府縣道 一〇〇米以上 八〇米以上 五〇米以上

段切ヲ爲ス場合ニ在リテハ道路ノ心中線上一・〇米ノ高ニ於テ之ヲ爲スベシ

第十 屈曲部中心線ノ半徑三〇〇米未滿ノ箇所ニ於テハ其

ノ屈曲部ノ内側ニ於テ次ノ標準ニ依リ其ノ有效幅員ヲ擴大スベシ、但シ有效幅員九米以上ノ道路ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

半

徑

擴大スベキ幅員

一五米未滿	二・七米
一五米以上	二・〇米未滿
二〇米以上	二・〇米
三〇米以上	三・〇米未滿
五〇米以上	一・七米
七五米以上	五・〇米未滿
一〇〇米以上	一・二米
一五〇米以上	五・〇米未滿
二〇〇米以上	〇・八米
二五〇米以上	七・五米未滿
三〇〇米以上	〇・五米
三五〇米以上	一・〇〇米未滿
四〇〇米以上	〇・四米

一五〇米以上 三〇〇米未満 〇・三米

第十一 第十ノ場合ニ於テハ屈曲部ノ兩端ニ次ノ標準ニ依

ル長ノ緩和區間ヲ設クベシ

半 徑 緩和區間長

二〇米以上

三〇米

二〇米以上

二五米

五〇米以上

二〇米

一〇〇米以上 三〇〇米未満

一〇米

第十二 屈曲部ニ於ケル横斷勾配ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外

中心線ノ半徑三〇〇米未満ノ箇所ニ限リ次ノ標準ニ依ル

片勾配ト爲スベシ、但シ片勾配ハ第二十ノ標準ニ依ル

斷勾配ヨリ緩ナルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ屈曲部ト直線部トノ横斷勾配ノ摺付ハ

道路ノ外側ニ沿フ長一〇米ニ付〇・一米ノ割合ヲ以テ標

準ト爲スベシ

半 徑 片勾配

一〇米未満

六%

一〇米以上 一五〇米未満

三%乃至六%

一五〇米以上 二〇〇米未満 二%乃至三%

二〇〇米以上 三〇〇米未満 一・五%乃至二%

第十三 屈曲部中心線ノ半徑三〇〇米未満ノ曲線ハ特殊ノ

箇所ヲ除クノ外背向直接ヲ避ケ兩曲線間ニ第十一ノ標準

ニ依ル緩和區間長ノ和ヲ標準トスル直線部ヲ設クベシ

第十四 屈曲部中心線ノ半徑三〇〇米未満ノ複合曲線ハ特

殊ノ箇所ヲ除クノ外之ヲ避クベシ

屈曲部中心線ノ半徑三〇〇米未満ノ複合曲線ヲ用フル場

合ニ於テハ直接スル兩曲線ノ半徑ノ比ハ三分ノ二ヨリ小

ナルコトヲ得ズ

屈曲部中心線ノ半徑三〇〇米未満ノ同方向ノ二曲線間ニ

長三〇米以上ノ直線區間ヲ挿入シ得ザル箇所ニハ單一曲

線又ハ複合曲線ヲ設クベシ

勾 配

第十五 道路ノ勾配ハ次ノ規格ニ依ルベシ、但シ特殊ノ場

合ニ限リ平坦部ニ在リテハ五%迄、丘陵部ニ在リテハ六

%迄、山岳部ニ在リテハ一〇%迄急ト爲スコトヲ得

道路ノ種類

國道及指定府縣道	平坦部	丘陵部	山岳部
其ノ他ノ府縣道	三%以下	四%以下	五%以下
	四%以下	五%以下	六%以下

第十六 勾配四%ヨリ急ナル坂路ノ長ガ次ノ標準ニ依ル制限長ヲ超過スル場合ニ在リテハ制限長以內毎ニ勾配二・

五%ヨリ緩ナル長五〇米以上ノ區間ヲ設クベシ

勾配 制限長

四%以上	五%未滿	七〇〇米
五%以上	六%未滿	四五〇米
六%以上	七%未滿	三〇〇米
七%以上	八%未滿	二〇〇米
八%以上	九%未滿	一五〇米
九%以上	一〇%以下	一〇〇米

四%以上ノ勾配二以上連續スル坂路ニ在リテハ其ノ勾配ニ對スル制限長ノ比例ニ依リテ之ヲ一勾配ノ坂路ノ長ニ換算シ前項ノ標準ニ依ルベシ

自動車交通ヲ主トスル道路ニ在リテハ第一項ノ制限長ヲ相當大ト爲スコトヲ得

第十七 道路ニハ〇・五%ヲ標準トスル最小勾配ヲ付スベシ但シ排水上必要ナキ箇所其ノ他特殊ノ箇所ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第十八 勾配ノ變移スル箇所ニ於テハ次ノ標準ニ依ル長ノ

縱斷曲線ヲ設クベシ

勾配ノ代數差

〇・五%以上	三%未滿	二〇米以上	一五米以上	一〇米以上
三%以上	五%未滿	四〇米以上	三〇米以上	二〇米以上
五%以上	七%未滿	六〇米以上	五〇米以上	二〇米以上
七%以上	一〇%未滿	九〇米以上	七〇米以上	三〇米以上
一〇%以上	一三%未滿	一〇〇米以上	九〇米以上	四〇米以上
一三%以上	一六%未滿	——	——	五〇米以上
一六%以上	二〇%以下	——	——	七〇米以上

縱斷曲線長

平坦部 丘陵部 山岳部

第十九 坂路ニ於ケル屈曲部中心線ノ半徑(米)ヲ其ノ勾配

(%)ニテ除シタル數ハ平坦部ニ在リテハ七・五以上、丘陵部ニ在リテハ六・〇以上、山岳部ニ在リテハ四・〇以上トナスベシ

上トナスベシ

横斷勾配

第二十 道路ノ横斷勾配ハ次ノ標準ニ依ルベシ

路面ノ種類

横斷勾配

砂 利 道

四%乃至六%

水締マカダム道

三%乃至五%

瀝青塗裝道

二・五%乃至四%

瀝青マカダム鋪裝道

二・五%乃至三%

瀝青コンクリート鋪裝道

二%乃至二・五%

塊 鋪 裝 道

二%乃至二・五%

コンクリート鋪裝道

一・五%乃至二%

シート・アスファルト鋪裝道

一・五%乃至二%

土 工

第二十一 盛土ノ法勾配ハ普通土砂ニ在リテハ一割二分ヨ

リ緩ト爲シ高二米ヲ超ユル場合又ハ土質若ハ地盤軟弱ナル場合ニ在リテハ相當之ヲ緩ト爲シ必要ニ應ジ小段ヲ設クベシ

法尻ガ水流ニ因リ洗堀サルル虞アル箇所ニハ適當ナル法留工ヲ施スベシ

第二十二 切土ノ法勾配ハ普通土砂ニ在リテハ一割ヨリ緩

ト爲シ高大ナル場合又ハ土質軟弱ナル場合ニ在リテハ相當之ヲ緩トナシ必要ニ應ジ小段ヲ設クベシ

法尻ニハ側溝ヲ設ケ必要ニ應ジ犬走又ハ土留工ヲ施スベシ

第二十三 路端ノ高ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外道路ニ近接スル水面ノ平水位ヨリ六〇糎以上、最高水位ヨリ三〇糎以上ト爲スベシ

第二十四 雨水、湧水、凍結等ニ因リ法面崩壊ノ虞アル箇所ニハ法面保護工、小段又ハ犬走ヲ設クベシ

第二十五 側溝ノ深及底幅ハ三〇糎以上、其ノ最小縱斷勾配ハ〇・五%ヲ標準ト爲スベシ

交 又

第二十六 國道、指定府縣道及主要ナル府縣道ニ在リテハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外鐵道、新設軌道、自動車道又ハ之ニ類スルモノト平面交又ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七 道路ガ鐵道、新設軌道、自動車道又ハ之ニ類ス



ルモノト平面交叉ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ交角ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外四五度以上ト爲スベシ。

踏切前後道路各長三〇米以上ノ區間ハ二・五%ヨリ緩ナル勾配ト爲スベシ

踏切ノ有效幅員ハ前後道路ノ有效幅員ヨリ小ナルコトヲ得ズ

踏切前後道路ノ有效幅員五・五米未滿ノ場合ニ在リテハ踏切及其ノ前後ニ於ケル長各三〇米以上ノ區間ハ有效幅員ヲ五・五米以上ト爲スベシ

踏切ニ於テハ線路ノ最縁端軌條又ハ自動車道ノ路端ヨリ道路ノ中心線上四・五米ヲ隔テタル地點ニ於テ線路上又ハ自動車道ノ中心線上左右各次ノ標準ニ依ル長ノ見透區間ヲ保持セシムベシ、但シ車輛運轉中番人ヲ常置シ又ハ完全ナル自働踏切警報機ヲ設置スル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

踏切地點ニ於ケル車輛ノ最高時速

三五米未滿

法

令

見透區間長

單線

複線

四〇米以上

六〇米以上

三五糎以上	五〇糎未滿	六〇米以上	八〇米以上
五〇糎以上	六五糎未滿	八〇米以上	一〇〇米以上
六五糎以上	八〇糎未滿	一〇〇米以上	一二〇米以上
八〇糎以上	一一〇米以上	一四〇米以上	

第二十八 道路ガ交會又ハ屈曲スル箇所ノ凸角ハ半徑七・五米以上ヲ標準トシテ之ヲ翦除スベシ

待 避 所

第二十九 有效幅員四・五米未滿ノ道路ニハ少クトモ三〇〇米毎ニ見透開敞ノ箇所ヲ選ビ待避所ヲ設クベシ

待避所ノ有效長ハ二〇米以上ト爲シ其ノ區間ニ於ケル道路ノ有效幅員ハ四・五米以上ト爲スベシ

雜

第三十 道路ニハ必要ニ應ジ駒止、防護柵、照明、反射鏡等ノ設備ヲ爲スベシ

第三十一 特別ノ事由アルモノニ限り前各號ノ定ニ依ラザルコトヲ得

## 質 疑 應 答

問 電氣事業法第一條第三號該當事業に對し土地收用法の適用ありや否や御教示を乞ふ。(高杉生)

答 積極に解す、即ち一般の需用に應じ電氣を供給する事業及一般運送の用に供する鐵道、又は軌道の動力に電氣を使用する事業に對し電氣を供給する事業は、從來自家用電氣工作物施設規則に依り規律せられ、而して事業者の申請に依り主務大臣の認定を経、電氣事業法の規定の一部を準用することを得るに過ぎざりしも、昭和六年電氣事業法の改正に依り右事業も亦之を新に電氣事業として認められ、前記二事業と均しく電氣事業法の適用を受けることと爲れり、蓋し發電、送電、配電の三方向に於ける電氣事業の分化發達の趨勢に照し、電氣事業に電氣を供給する事業は其の全電氣事業上に於ける地位の重要なこと従來の電氣事業と毫も擇ふ所なきに至りたる結

果にして、同事業か新に電氣事業と認められ、且舊法に比し著しく公共的色彩濃厚となれる改正電氣事業法の支配を従來の一般電氣事業と同等に受くることと爲りたるは、即ち法上同事業が公共性を認められたるものと解すべく、從て電氣事業法第一條第一號及第二號該當事業と同様、同條第三號該當事業に在りても公共の利益と爲るべき事業として土地收用法の適用を許さるべきものと解す、内務省に於ても右解釋に依り本年十一月七日鳥取縣八頭郡智頭町地内起業に係る山陽水力電氣株式會社の申請に對し、土地收用法に依り土地を收用又は使用し得る事業と認定したり、因に電氣事業法第三十條第二項規定に依る準用事業は大正八年二月二十八日發第四〇號土木局長通牒に依り、又電氣事業法第一條第一號及第二號に該當せざる特定の會社に電力の供給を目的とする事業は大正七年六月六日長土第三一號通牒に依るべきは勿論の義とす。